

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 7
2013.12

JU 城西大学
Jbc 城西短期大学

ニュース

第46回高麗祭

一人一人の 「おもてなし」で秋彩る

ニュース 城西短期大学創立30周年 薬学部創設40周年
記念式典 盛大に 華やかに

城西短期大学創立30周年 薬学部創設40周年

記念式典 盛大に 華やかに

城西短期大学創立30周年と薬学部創設40周年の記念式典が10月5日、清光会館ホールで執り行われました。あいにくの雨模様でしたが、卒業生や来賓、本学関係者ら約700人が参加し、節目を祝いました。



式典であいさつする水田理事長

式典ではこの日オープンした「水田清子記念ローズガーデン」にバラの苗木20本を寄贈した駐日ブルガリア大使館のゲオルギ・ヴァシレフ大使や短期大学学歌作曲者の吉岡しげ美さんらに、水田宗子理事長から感謝状が贈られました。

水田理事長はあいさつで「薬学部創設40年と短大創立30年は、大学創立50周年の先駆けとなる重要な節目です。これまで順調に教育事業を持続的に発展させ、高い評価を受けていることは、本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。これもひとえに地域や卒業生、父母後援会の皆さんのゆるぎない支援の賜物です。21世紀の厳しい後半に向けて、本校の創立100周年に向けて一丸となって建学の理想を実現していかなければなりません」と述べました。

最後に、キャラクターのジョー君やコマちゃん、揃いのTシャツ姿の現役の学生が会場に入り、城西大学学歌と城西短期大学学歌を斉唱して式典を終えました。

祝賀会は、「水田清子記念ローズガーデン」のオープニングセレモニーを挟んで総合体育館で催されました。ブルガリア大使にちなんで、樽酒ならぬ樽ヨーグルト、で鏡割り。アトラクションでは、城西大学吹奏学部と城西国際大学の吹奏楽団の演奏のほか、JOSAI紀尾井町混声合唱団やハンガリー留学生の合唱も行われ、祝賀会を盛り上げました。

「水田清子記念ローズガーデン」オープン

式典に引き続き、13号館西側に整備された「水田清子記念ローズガーデン」のオープニングセレモニーが行われました。水田宗子理事長や森本雅憲学長、ゲオルギ・ヴァシレフ大使らがテープカットをした後、ブルガリア大使館から送られたバラの苗木の植樹が行われました。

ローズガーデンは約660平方メートルの洋風庭園で、世界各国のバラなどが植えられています。短大創立30年と薬学部創設40周年を記念するとともに、今年1月に亡くなられた水田清子名誉理事長の功績を顕彰するものです。

水田理事長は「8000人の学生たちや9万人の卒業生たち、多くの市民が気軽に来て楽しむソウル・スポットになってくれればと思います」とあいさつしました。



ブルガリア大使も参加したテープカット

宮川長春「江戸風俗図巻」公開

水田美術館ではこの日、水田家から新たに寄贈された江戸時代の浮世絵師、宮川長春(1682~1752)の肉筆画「江戸風俗図巻」上下2巻など23点が公開されました。長春は宮川派・勝川派の祖で、18世紀前半に肉筆浮世絵を専らとし、江戸の美人画をリードしました。

図巻は縦約32センチ、長さ6メートルの2巻。当時の芝居小屋や遊郭などの様子を6場面を描いています。老若男女、色鮮やかな衣装をまとった登場人物は総勢約270人。秘蔵されていただけに保存状態が良く、極めて貴重な作品となっています。10月12日から11月17日まで奈良市の大和文華館で開かれた「特別展 宮川長春」に貸し出しするのを前に、美術館でのお披露目となりました。

このほか、前田青邨の「紅白梅」や月岡芳年の「金太郎図」、菱田春草の「春景山水」なども初公開されました。県内各地からの来場者をはじめ、式典参加者ら約400人が鑑賞しました。



江戸風俗図巻(部分)

目次

- 02 [ニュース] 城西短期大学創立30周年 薬学部創設40周年 記念式典 盛大に 華やかに
- 04 [ニュース] 第46回高麗祭 一人一人の「おもてなし」で秋彩る
- 06 [紀尾井町ニュース] ハンガリー首相来学 ミャンマーと連携協力協定 于涛先生 特別講演会
- 07 [ニュース] まちづくりシンポに3市長 人工芝サッカー場オープン
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド 学内外で活躍する城西人たち
- 10 [学園ミニニュース]
- 11 [エリア紹介] 鶴ヶ島市 新年は「どんと焼き」 日高市 日高かわせみマラソン 東武線沿線情報 東武健康ハイキング

(おこわり) 「浮世絵～水田コレクションより～」は休みました

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙 本学最大のイベント「高麗祭」は紅葉が色濃くなった11月2、3、4の3日間にわたって開かれました。大学創設の2年後にスタートして今年46回を数えました。同窓生や後援会の方々、市民や学生約1万5000人が楽しみました。



ニュース

私たちの私たちによるあなたの為の高麗祭

一人一人の「おもてなし」で秋彩る

紅葉が深まる11月2、3、4の3日間、秋を彩る本学の一大イベント第46回「高麗祭」が開かれました。今年のテーマは「私たちの私たちによるあなたの為の高麗祭」。総合体育館での開祭式で、湯浅駿実行委員会委員長は「今年のテーマは、城西大学の学生一人一人が、来場される方々に心からのおもてなしをして喜んでもらえる祭にしようという意味です。我々の学んでいる力を発揮したい」と力強くあいさつしました。



落語、美術展でアートな時間

2日目は林家さく姫さんの落語やクールポコのお笑い、ロックコンサートなど。最終日は、戦場カメラマンの渡部陽一さんの講演会などがありました。また、期間中は図書館の特別展示や美術館の特別公開なども行われ、それぞれが秋の一日を思い思いに楽しみました。



楽しくメリハリとけじめをつけて

高麗祭実行委員会第46期委員長
湯浅 駿さん(現代政策学部4年)



今年の高麗祭は約8900人が来場し、学生たちも合わせると約1万5000人が参加した。WNCプロレスや図書館ビブリオバトルなど新しいイベントも大成功を取った。そんな高麗祭を中心となって支えたのが、高麗祭実行委員会第46期委員長の湯浅駿さん(現代政策学部4年)だ。

湯浅さんは温故知新の精神のもとに、今年の高麗祭実行委員会の目標に「楽しく、しかしメリハリとけじめをつけて」を取り入れた。今までより厳しくなった委員会活動に、最初は不満を抱く人もいたが、先輩たちから学んだことを生かし、また真剣に支えてくれる後輩たちにも助けられて実行委員長を務め終えたという。

湯浅さんは「目標を決め、根拠のない自信を持ち、そしてそれに伴う努力を陰で行ったときに不可能が可能になる」と熱く語ってくれた。「実行委員会の後輩たち、そして城西生にも自分の大学に誇りを持ち、学生生活で学べることを学び、社会で役立ててほしい」とメッセージを送っている。

(取材:広報委員会2年・戸澤敦子、丹波瞭、松本拓郎)

プロレス、トークショーに歓声

初日は、大いに盛り上がったプロレス大会のほか、立ち見も出た俳優の玉木宏さんのトークショー、美男美女が次々と登場した男装女装コンテストなどのイベントがあったほか、毎年人気の同窓会と父母後援会による物産展では会場前に長い列ができました。

紀尾井町ニュース

法人本部および姉妹校の城西国際大学と共同で実施した事業やニュースなどをご紹介します。

記念講演 学生と交流 2013.11.21

ハンガリー首相が城西大を訪問

政府の招きで来日したハンガリーのオルバーン首相が11月21日、紀尾井町キャンパスを訪問しました。本学は07年にハンガリー文化センターの設立に参画、大学間の学術協定などでハンガリーとの積極的な国際交流活動を展開していることが、今回の表敬訪問に結び付きました。

午前10時過ぎ、留学生ら約80人がハンガリー国旗を振って出迎える中、オルバーン首相ら一行が到着。同大の水田宗子理事長は歓迎のあいさつで「両国の懸け橋となる若者にチャンスを与えてきたことを誇りに思います。首相の訪問と記念講演は本学とハンガリーとの交流の記念すべきものになる」と述べました。これに対し、オルバーン首相は「これを機に文化交流にも力を入れたい」と語りました。

その後、地下1階のホールで、オルバーン首相に同大学から名誉博士記が授与され、オルバーン首相が「変化する世界の中のハンガリーとヨーロッパ」をテーマに記念講演しました。「ハンガリーはいつユーロを導入するのか」など学生の鋭い質問にオルバーン首相は笑顔も交えて丁寧に答え、引き続きホワイエで短時間ながら学生たちと交流して本学を後にしました。



名誉博士記を受けたオルバーン首相(中央)と水田理事長、森本学長

法人本部 2013.10.18

ミャンマーと初の連携協力協定

法人本部は10月18日、ミャンマーの元日本留学生協会(MAJA)と連携協力協定を締結しました。本学は国際交流活動の強化を掲げていますが、ミャンマーと連携協力協定を結ぶのは初めてのことです。

MAJAは、かつて日本で勉強したミャンマーの留学生で組織する同窓会組織で会員は約1500人。日本語教育やビジネスマン育

成のための技術研修、経営研修の事業を行っています。

当日は、MAJA会長のミン・ウェイ氏が紀尾井町3号棟で、水田宗子理事長と連携協力を締結しました。水田理事長は「今日は、本学とミャンマーの国際交流にとって極めて重要な日。お互いに協力しながらグローバル人材の育成に力を入れていきたい」とあいさつ。ミン・ウェイ氏も「学生の交換留学などを側面から支援していきたい」と述べました。

締結後、ミン・ウェイ氏は本学の「第4回ASEANフォーラムJOS AI」で「ミャンマーとアジアの未来」と題して講演しました。

于涛先生 特別講演会 2013.10.30

能力アップし文化交流に貢献を

本学にも多くの留学生が学んでいる中国・大連市の外事弁公室主任で城西国際大客員教授の于涛先生の特別講演会「大連市の現状と今後の展望」が10月30日、紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。城西大女性人材教育センターと城西国際大ジェンダー・女性学研究所の共催で、本学の留学生ら約200人が、于先生の興味深い話に熱心に聞き入りました。

講演は日本語で行われました。于先生は大連市のGDPや財政収入などの数字を挙げ、「中央政府の優遇政策を受け、著しい発展を見せている」と語りました。産業や観光、国際会議、農水産物など大連市の特色を紹介するとともに、高齢化時代に向け「民政と社会事業の発展にも力をいれている」と強調しました。また、今後については「市長は、資源の集中している南地区と田舎の北地区のギャップをなくす全域都市化を提唱している。老人介護の問題については、日本は中国の手本で学ばなければならない」と語り、最後に学生たちに「中日友好、文化交流に貢献できるよう能力アップして人生の目標を達成してほしい」と呼びかけました。



于涛先生

ニュース

3市長招き「地域の未来」を語る

「まちづくりシンポジウム」 2013.10.7

坂戸、鶴ヶ島、東松山の3市長をパネリストに招いた「まちづくりシンポジウム」が10月7日、清光会館ホールで開かれました。経済学部が主催、「地域の未来をデザインする」をテーマに開催したシンポジウムでは、同学部の学生ら約500人が熱心に耳を傾けました。

本学は、地域のさまざまな教育資源を活用した教育プログラムの策定・実施に向けた取り組みを進めています(城西大学連携教育・研究推進プロジェクト「J-CLIP」)。今回のシンポジウムも、そうした取り組みの一環として初めて開催しました。

森本雅憲学長のあいさつに続き、石川清・坂戸市長と藤縄善朗・鶴ヶ島市長、森田光一・東松山市長の3市長から、各自自治体における地域活性化策の説明がありました。その後、行政と大学との連携協力の方策などについて議論を展開しました。森田市長らは「公を担うのはかつては官だったが、今は市民との連携は当たり前。特に地域にある大学は知恵の宝庫」などと述べました。

学生から「困っていることは何か」と問われたのに対し、各市町

は財源不足や公共施設の維持管理費の増大によって新規事業に取り組むことが難しい実情を説明。藤縄市長は、公共施設建築事業への市民や学生の積極的参加を呼びかけました。



(右から)石川清・坂戸市長、森田光一・東松山市長、藤縄善朗・鶴ヶ島市長

人工芝でJIUと記念試合

サッカー場オープニング・セレモニー 2013.11.17

人工芝となった総合グラウンドのサッカー場のオープニング・セレモニーが11月17日、同グラウンドで行われました。安全祈願の神事の後、水田宗子理事長、森本雅憲学長、施工の住ゴム産業の吉澤貢社長のほか、サッカー部の猿山誠監督、三原久人主将らがテープカットして、完成を祝いました。

水田理事長はあいさつで「本学は建学の精神にスポーツを通した人間形成もあっており、スポーツに力を入れてきました。50周年を迎える記念事業の一環として、サッカー部がもっと力を発揮できるように願って人工芝を敷かせていただいた。今日を一つの励みとして心と体を鍛えてほしい」と述べました。

引き続き行われた城西国際大サッカー部との記念試合では、両大学の

マスコットの交換の後、本学サッカー部OB会長の佐藤秀樹・毛呂山町町議が記念キック。30分ハーフで行われた試合は0-2で敗れたものの、イレブンたちは緑鮮やかなピッチで思う存分、駆け回っていました。



試合後、水田理事長や招待者らと記念撮影に収まる両チームの選手たち

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

アイドルユニット・あんず組(薬学部) ダンスで学生生活華やかに

「大学生活で目標がほしい」。そんな小さな思いから昨春秋、薬学部生が立ち上がった。代表の中條万里江さん、副代表の細合遥香さんを中心としたグループ「あんず組」だ。アイドル系コピーダンスユニットで、人数は3年生8人、2年生1人、1年生4人。3年生のうち1人は男子でマネージャーとして活動している。

名前の由来は、漢方薬としても重宝される杏子が、薬学生である自分たちのイメージに合うほか、バラ科にちなんで学生生活を華やかなものにできたら、という思いからだ。去年は、高麗祭のステージで素晴らしいパフォーマンスを初披露し、学外では「ユニバーシティー・アイドル」という大会にも出場。原宿のカフェでもパフォーマンスを行うなど精力的に活動している。

メンバーは「初心者でも一から教えるので大丈夫。大学生活で目標が見つからない人、勉強以外で成果を残したい人



今年の高麗祭でのパフォーマンス

は、ぜひ声をかけてほしい」と呼びかけている。

あんず組:anzuu402@gmail.com

(取材:広報委員会3年・田中陽子、萩原優人、近藤一樹)

TFTサークル 食堂ランチから途上国支援を

「TFT」(TABLE FOR TWO=二人の食卓)は、地球上で飢餓に苦しむ人と食べ過ぎて不健康になる人、この相反する問題を同時に解決しようという社会貢献活動のことだ。



TFTサークルは新食堂1階でランチメニューの提供を行っている。メニュー1食の代金のうち20円を発展途上国に寄付する仕組み。20円は発展途上国の給食1食分に相当する。食堂で昼食を食べるだけで簡単にボランティア活動に参加できるわけだ。

メンバーの熱心な活動でTFTの知名度は上がっており、今年の高麗祭では「マフェ」というアフリカの料理を販売した=写真。

これからの活動として、高麗祭での知名度の上昇を好機として1日30食以上の提供を目標に、学生団体としてできる範囲で活動を広げていきたいという。メンバーは「一緒に活動したい」と、新メンバーを募っている。TFTという素敵な名前を持つ、この団体の今後の活動に協力していきたい。

(取材:広報委員会2年・栗原勇斗、須田達也、戸塚優樹、鈴木彩加)

空手道部 少数精鋭 目標明確に前進

空手道部は4年2人、3年1人、2年3人、1年1人の7人で活動している少数精鋭のチームである。「少ない人数だからこそ、強い絆が生まれると思う」と語るのは、主将の黛篤志さん(理学部4年)だ。



主将の黛篤志さん

空手道の大会にはさまざまな種類があるが、黛さんたちが行うのは「寸止め空手」。10月の大会では、先鋒から大将までの組み合わせがうまくいき、初戦を見事突破できた。3回戦では、良いところまでいったが敗れてしまった。1部リーグと2部の入れ替え戦では、1部との力の差が出たという。結局3位となり昇格はできなかったが、「本当に悔しかった」と黛さんは振り返る。

普段は、授業などでなかなか全員が集まらない。そんな時は、夏の5日間の合宿で挽



回する。目標を明確にすることで前進していることを実感しながら練習に励んでいたそうだ。高麗祭当日は、一致団結していきいきと演武をし、勇ましくメインイベントの水柱割りも成功させた=写真。黛さんは「主将としての焦りもあったが、全力でやれた。今後は後輩たちが、自分たちの想いをきっと叶えてくれると信じています」と、さわやかな表情でメッセージを残してくれた。

(取材:広報委員会4年・藤部佑哉)

緑のおばちゃん 掃除で快適な学生生活支える

大学を裏方から支え、キャンパスをきれいに保ってくれている緑のシャツが目印の「おばちゃん」たち。おばちゃんたちは女性24人と男性10人の総勢34人で仕事をしている。

朝8時から9時半までの間に教室、トイレ、廊下、階段の掃除やゴミの分別を行うなど、午前中にやる仕事が詰まっている。また、午後には黒板をきれいにしたり、トイレ掃除を行ったりもしている。

学生たちが快適に勉強できるようにさまざまな工夫をしているようだ。例えば、ゴミを持っているときは、エレベーターを使わず階段を使うようにしていたり、自分たちがゴミを落とさないよう常に後ろには気を付けていたりしているそうだ。

掃除をするうえで大変なこともある。特に大変なのはカップラーメンのスープや食べ残しだ。スープなどを洗面所などに捨てられると、詰まってしまい掃除が大変になる。学生たちは引き続き気を付けるべきだろう。



「緑のおばちゃん」たち

「緑のおばちゃんたち」は、最近携帯電話や財布の忘れものが多いと感じるらしい。「自分のことは自分で管理するよう心がけてほしい」と話していた。

(取材:広報委員会2年・貝沼大輔、中原雅人、池田みなみ)

学園ミニニュース

化粧と化粧品の歴史を展示

薬学部は創設40周年を記念し、11月2日から30日まで、水田美術館で「ポーラ・コレクションからみる化粧と化粧品の歴史—装飾化粧から化粧療法まで—」を開催しました。化粧の歴史は装飾化粧から始まり、女性の自己表現のための化粧、患者の心をいやす化学療法の実践と、時代の流れとともに様変わりしてきました。ポーラ文化研究所の協力によって、江戸時代のお歯黒道具やお歯黒に使う渡金箱、明治から昭和初期にかけての鏡台など化粧道具や化粧品、当時の化粧風景などを描いた浮世絵など計約50点を展示＝写真。化粧と化粧品の歴史、化粧品の安全性、医療現場における化粧の役割などを薬学的視点から紹介しました。



水中リハビリ運動教室

水中での水圧や浮力を生かしプール内でさまざまな歩行運動を行う「健康づくり水中リハビリ運動教室」が今年も10月17日から、健康増進施設「サテさかど」で始まりました。本学と坂戸市の共同プロジェクトで、今年で4回目。水野加寿水泳部監督が指導し、短大の洪井三男教授が効果分析を行っています。同市内在住の65歳以上のまたは身体に障がいのある人が対象で、初回は約30人が参加＝写真。カウンセリングを行い、個人のレベルにあったクラス分けをしました。教室は12月26日まで計10回行われます。教室の内容や次回以降の教室などの問い合わせは、サテ坂戸(TEL049-280-7111)。



図書館講座 坂戸市民が受講

水田記念図書館は近隣の公共図書館6館と相互協力提携を結んで、より幅広い資料の提供をしています。10月10日、坂戸市立図書館主催による「図書館利用講座」が当館で開催され、坂戸市民17人が参加しました。座学では当館の貴重書コレクションの紹介や法律関係のデータベースの活用法、処方された薬について調べる方法を案内。その後の館内ツアーではシラバス図書コーナー・雑誌バックナンバー書庫など大学図書館の特色ある資料を中心に見学しました＝写真。



日本語スピーチコンテスト

留学生が日本語学習の成果を競う「第22回日本語スピーチコンテスト」が10月26日、別科の主催で開かれ、11人が日本での生活で感じたことなどを表現しました。在日3年未満の留学生が対象で、スピーチは7分以内。最優秀の水田宗子理事長賞には「生徒から先生へ」と題して語った現代政策学部のラスロー・ジャネットさんが輝きました。母国ハンガリーで日本語を教えることになったラスローさんは「今まで教えてくださった先生たちのように、素敵な先生になる夢をかなえたい」と話しました。

エリア紹介

鶴ヶ島市

新年は「どんど焼き」
無病息災の願い込め

来 年1月11日(土)(荒天の場合は12日に延期)に鶴ヶ島市東公民館で、「どんど焼き」が行われます。今回で32回目。どんど焼きの火で正月飾りを焼き、その火であぶった餅を食べると一年間無病息災で過ごせるとい



れています。小さな催しですが、行事を通して住民同士の交流を深め、住みよい地域づくりを願って開催しています。

「やぐら」の材料となる竹やわらは、近隣の住民から提供していただきます。やぐらは、当日朝の竹の切り出しに始まり、大勢で協力して作ります。また、やぐらへの「火入れ」は、その年の干支生まれの小学生が行いますが、そのときに使う「たいまつ」も、地域の大人に教えてもらい

ながら子どもたちがつくっています。

【当日の主なプログラム(予定)】▽やぐらづくり、たいまつづくり：午前中▽もちつき体験：14時から▽どんど焼き火入れ式：16時半から＝写真は今年撮影。

日高市

早春の高麗郷を駆け抜ける
「日高かわせみマラソン大会」

霊 亀2年(716年)、大和朝廷は関東一円を中心に高麗郡を建郡しました。そして、平成28年(2016年)はその高麗郡が建郡されてから1300年を迎える記念の年です。日高市では、先人が築き上げた歴史や文化に感謝し、未来に引き継ぐため、「高麗郡建郡1300年」を記念した事業を進めています。そんな歴史を感じながら走ることができるのが、来

年3月9日(日)に開催される、「日高かわせみマラソン大会」＝写真は今年の大会＝です。そのコースからは、高麗郡の初代郡司、高麗王若光を祭った高麗神社や、若光の墓とされる高麗王廟があ



る聖天院を見ることができます。また、清流高麗川に沿った道中には、日高市のシンボルである日和田山もあり、悠久の歴史と自然が調和した、起伏に富んだコースが楽しめます。ご自身の体力に合わせて、距離が選択でき、またファミリーでの参加もできます。大会参加のお申し込みは、日高市文化体育館「ひだかりーナ」☎042-985-2090にある申込書をご利用いただくか、RUNNET(<http://runnet.jp/>)からお申し込みいただけます。

東武線沿線情報

年間を通し楽しめる
「東武健康ハイキング」

東 武鉄道では年間を通して、「東武健康ハイキング」を開催しています。東武東上線エリアでは、7000人を超す応募がある外秩父七峰縦走ハイキング大会や4000人が参加する武蔵おごせハイキング大会を筆頭に、その他鉄道会社との合同企画のハイキングなど年間14回程度のハイキングイベントを開催しています。東上線にある自然豊かな風景をお楽しみいただくとともに、ハイキングによる健康増進を図る目的で、たくさんの方にご参加いただいています。また近年では、山ガールのブームにより、友人同士やご家族などで参加する方も増えています。

来 年1月4日(土)には、越生町で開催する「新春・武蔵おごせ七福神めぐりハイキング」、3月1日(土)は「梅まつり・越生里山湯めぐりハイキング」など同じ町でも季節やイベント時期によって異なる楽しみ方ができるようになっています。

まずは、東武東上線に乗ってハイキングに参加してみませんか。詳しくは駅置きの「東武健康ハイキング」パンフレット、または東武鉄道ホームページをご覧ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>